

Union Press 埼玉大学教職員組合ニュース

平成29年7月発行

号外!

緊急アピール!



私たちのボーナスは公務員より低かった!

<うれしいボーナス>

みなさん、おかわりなくお過ごしでしょうか。去る6月30日は、みなさんお待ちかねのボーナス（正式には「期末勤勉手当」という名前です）が支給された日でした。期待していたよりもちょっぴり多く、ホッと安堵の胸をなで下ろした方♥ はたまた、期待の額には届かないので洗面を作りながら、それでもこみ上げてくる喜びに「笑いをかみ殺すのに必死」の方々。様々な計画を練って「虎の子」の使い道を考えている方々や、「しっかり貯蓄」という方々も多いかと思います。

<嗚呼、私たちのボーナスはさっ引かれている~!>

ところが、私たちのボーナスは、実は公務員よりも少額です。この衝撃の事実をご存じでしたか? 詳しく述べますと、去年の人事院勧告で、勤勉手当に関しては1.7ヶ月とされ、公務員の場合は満額支給されています。これに対し、埼玉大学の教職員は、ボーナスが1.62ヶ月分しか支給されていません。つまり、0.08ヶ月分さっ引かれてしまっているのです。みなさん、もっと疑問や怒りをもってこの事実を受け止めなければなりません。では、誰がさっ引いているかということ、それはいうまでもなく大学の執行部です。0.08ヶ月分は大した額ではないとうそぶく「独身貴族教職員」ももしかしたらいるかもしれませんが、「アリの穴から堤もくずれる」という俚諺もあります。放っておくと近い将来に本給までドンドンさっ引かれる可能性だって捨てきれないのです。

<大学執行部の呆れた言いくさ>

私たち組合はこの点を問題にし、3月末の団体交渉の際に問題提起いたしました。ところが、大学執行部の態度は、冷淡なものでした。すなわち、大学経営により予算に余剰分が出る時もあればそうでないときもあるので、やむを得ない云々。教職員の給与をあらかじめ確保したうえで大学経営を行うことなどは「できない」云々。要するに、大学経営の赤字を教職員の給与で埋め合わせするというやり方で、まさに呆れたものでした。しかし、もともとは立派な研究者や正義感あふれる官僚だった人も今は埼玉大学の経営に心血を注ぐ立場にあるのですから、経営の不幸のつけを教職員の給与で埋め合わせするような愚かなことは回避すべきなのではないでしょうか。経営が苦しければ、まずは教職員の上にたつ人々自らが「身を切る」ような努力を率先して行うのがしかるべきスジではないでしょうか。自分たちは安全な地で安んじて又ク又クとした待遇と飽食におぼれていながら、教職員に対してはキビシイ選択を飲むことを迫るというのでは、全学的な尊敬を勝ち取ることなどは「夢のまた夢」であることを悟るべきでしょう。

<全教職員の力を組合に結集しよう>

大学経営が苦しいことは、組合とて知らないわけではありません。しかし、大学の経営には、まだ努力が足りないところもあるでしょう。また、予算的に削るべき点は他にもあると思いますので、組合は引きつづきこうした状況に挑んでいきます。さしあたり、近々公表される予定の昨年度の財務諸表を手がかりに、組合は監視を強めて参ります。そのためには、是非とも皆様の一層のご支援、ご協力が必要です。どうぞ宜しくお願い致します。

ご意見・ご感想をお寄せください。お待ちしております！



埼玉大学教職員組合 〒338-0825 さいたま市桜区下大久保 255 第2 生協1階
E-mail : saikyoso@gr.saitama-u.ac.jp URL : <http://kumiai.client.jp>
電話/FAX : 048-853-5609 (内線) 3160
組合事務室の開室時間 : 月火水木 午後12時～夕方5時

